



- ①進んで学ぶ生徒
- ②心豊かな思いやりのある生徒
- ③たくましい生徒

## 修学旅行は北陸へ

校長 岡田 英行

5月26日(水)、保護者・地域の皆様のおかげをもちまして第74回体育祭を開催することができました。天候の関係で延期しての実施となった上、参観者を制限させていただくなど、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。今年度も、with コロナの学校生活が続いています。体育祭が終わり、次は感染リスクに配慮しながらの修学旅行です。



昨年度の修学旅行は、6月の予定を3月に延期し、場所も関東の近場に変えて事態の改善を待ったのですが、結局願いはかないませんでした。今年も引き続きコロナ禍が収束しない中、行き先を京都・奈良から北陸へと急遽変更して、6月1日に出発することにしました。東尋坊や永平寺、五箇山の合掌造り集落等々、見所も多く、3年生はワクワク感じっぱいです。もちろん、感染症には十分気を付けて行ってまいります。

北陸の中心都市は、石川県金沢市です(今回は感染症対策として素通りです)。江戸時代に「加賀百万石」の城下町として栄える基礎を築いたのが、戦国武将の前田利家です。現在で言う中学生の頃から織田信長に仕え、豊臣秀吉が天下人となると徳川家康とともに政権を支えました。その利家が、まだ血気盛んな20歳そこそこの頃の話です。信長の側近として順調に出世を重ねていましたが、ある日、信長のかわいがっていた茶坊主を一刀のもとに切り捨ててしまうという事件を起こしました。2人の間に、いざこざがあったようです。結果、信長の怒りを買って出仕停止処分となり、浪人同様のひっそりとした生活が始まりました。

そんな利家の住まいを探し出して、こっそり訪ねてくる知り合いがいました。その人たちには、3つのタイプがあったそうです。1つ目は、信長に目をかけられていた利家が、どんな落ちぶれた暮らしをしているか覗きにきた人でした。心の中で「いい気味だ」と思っています。2つ目は、その後の利家が何か良からぬことを企んでいないか探るのが目的でした。もし不穏の動きでもあれば、すぐに信長に報告しようというのです。そして3つ目は、心底から利家のことを心配している友達でした。何とか信長との間を取りなそうと気遣い、必死で奔走してくれていました。……困ったときほど、友達のありがたさが身にしみるものです。

修学旅行は、普段できない経験の連続です。日本を代表する伝統文化や歴史遺産、スケールの大きな自然景観を直接目にするのは貴重な体験ですし、現地の人たちとのふれあいも楽しみです。そして、何より有意義なのは、友達と寝食を共にする経験です。今年こそは、家庭や学校から遠く離れた地で、友達とのつながりを一層深める場面がたくさん見られそうです。



### おかげさまで開校75周年 ②

吹上中開校の年の修学旅行は、江の島への1泊旅行でした(昭和23年2月)。その後、熱海や箱根、会津若松へと行先は一定していませんでしたが、定番の京都・奈良へ向かうようになったのは昭和40年からです。修学旅行専用列車を利用した3泊4日の行程でした。うらやましいようですが、行くだけで丸1日を要し、帰りは車中泊という強行軍でした。新幹線を使うようになったのは昭和46年からで、伊勢を見学してから奈良・京都を訪れています。昭和の最後から平成の初めにかけて東北地方を巡る時代があり、再び関西方面へと戻されました。年によっては、大阪・滋賀まで足を伸ばすこともあり、最近の修学旅行はバリエーション豊かです。